

(株)ホンダトレーディングと連携した「みどり戦略」に関する真壁高校への体験型出前授業

(株)ホンダトレーディングと連携し、真壁高校 農業・環境緑地科の生徒（2年生18名）を対象に、「みどり戦略」や職業としての農業の魅力、農業の可能性について、作付け体験、講義を通して学び、農業及び環境への関心を更に高めてもらうため出前授業を開催

○ 施策分類

みどりの食料システム戦略

○ きっかけ・背景、課題の把握

- ・ 芝生産事業者から発生する刈り芝を使ったバイオ炭を所有しているホンダトレーディングと、G-GAP認証を受けるとともに環境保全を考える教育を実施している真壁高校を、バイオ炭を使用した体験型出前講座により両者を結び付けることで、みどり戦略の推進を行うこととした。

- ・ ホンダトレーディングはJクレジットプログラム運営するため、プロジェクト計画書を作成し第三者機関の審査中。

現在は、つくば市の芝生産事業者から発生する刈り芝を使ったバイオ炭で実証試験を行っているが、ビジネスの観点からもカーボンオフセットの観点からも連携農家を増やしカーボンクレジット創出量の拡大が必要となっている。

○ 取組の内容

- ・ 担い手候補者である農業高校生とともに、バイオ炭施用による麦栽培への影響を調べた。

- ・ 昨年12月の出前授業で実施した芝燻炭の畑施用を8区画（体積比0%、5%、10%、20%）に分けてすき込み、パン用小麦（ユメシホウ）の種をまいて、収穫した圃場の生育状況（穂長等）・収穫量（子実重、千粒重、粒度構成等）について講評した。

- ・ ホンダトレーディングからは、自社及び大学と協力した土壌分析結果やバイオ炭の土壌・環境に与える影響などを講評した。

○ 効果・成果、今後の方向性

- ・ 今回の取組においては、試験期間が短かったこと、バイオ炭の混合量が0%、5%、10%、20%の狭い範囲の設定だったこともあり、バイオ炭の施用量が小麦の生育や収穫量にはほとんど差がなかったものの、土壌の保水性や保肥性が向上するなどの結果になった。



体験圃場の写真



講義受講の写真

体制図

